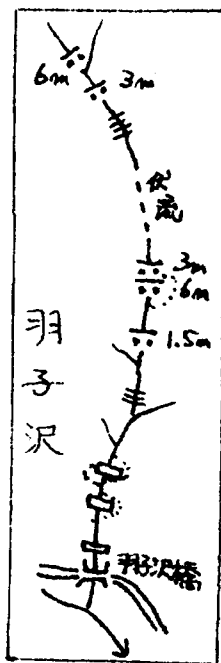


ナメが急傾斜になってきた所で二俣となる。左俣は水がほとんど流れていないので、右俣に入る。このあとは滝ともナメともいえない状態が源頭まで続き、結構楽しんで登ることができた。

(記・7)

[タイム] 出合(7:30)→二俣(8:25)→遡行終了(9:05)



羽子沢

1987年8月30日

L

9:00下降開始。右岸からの沢と出合った所で、水流が出てくる。しかし、これもすぐ伏流となってしまふ。9:25羽子沢本流に出る。ここで、ちょっと上流へ偵察に出る。何もないだろうと思っていたのに、20m程のナメと、3m、6mの滝があった。

下降を再開。F₂は左岸を捲く。登りなら、何とか登れそうな気がする。左岸からの支沢を合わせ、堰堤を3つ越すと林道に出る。ここで下降終了。

途中で伏流となったりで、特に美しい沢ではない。やぶもそれほどうるさくない沢だ。

(記・

[タイム] 稜線(9:00)→羽子沢(9:25)→下降終了(10:25)

サクエム沢

1987年8月29日

L

13:15遡行開始。出合から2つ目の堰堤を越えると、二俣となる。左俣に入る。そこから10分も歩くと5mトイ状の滝に出る。私が先に登って、浦住さんを確保する。ここからはナメが続き、快適な遡行となる。

F₂ 4mはスタンス充分で、楽に越す。さらに20分程ナメが続き、ガレ場に出た所で水もなくなった。遡行終了14:30。

(記

[タイム] 出合(13:15)→遡行終了(14:30)

